

## 教育実習ノート

◆YさんからK先生へ

○月○日

みどり組

バスから降りるとけいちゃんが、両手をひろげて走ってきて、部屋の入口で待っていたK先生に飛びついて抱きあげてもらおうと、今度は隣りのたかちゃんの肩をさわる。なんのことかわからなかったが、K先生はたかちゃんを抱いて、「おはよう」をしていた。もし私だったらわかってあげられたらどうかと思う。

◆K先生からYさんへ

けいちゃんは、自分がしてもらって嬉しいことは友達にしてあげてほしい、と言っているのです。けいちゃんは、殆んどしゃべりませんが、心

が通いますし、友達が大好きなので、日常生活には困ることがありません。たかちゃんは、ことばの発達がおくれていたのですが、早くに気づき、お母さんといると安心だ、という状態からことばもでて、指導を受けていた治療教室でも「もう大丈夫ですよ」と言われ、近所の幼稚園に行きたとたんに、強制されることが多く、四日行っただけで登園せず、又話さなくなりましたお子さんです。キンダーガーデンである筈の幼稚園が、子どもの「ことば」も奪ってしまう、ということはどういうことなのでしょう。ここには十月に遊びにきてから、遠いのですが休まずにきています。僅かの日数なので、同じような状態の、ともおちゃん、しげちゃんを中心に勉強なさると

いいでしょう。

◆YさんからK先生へ

○月○日

二日目になったら、きのうは遠くから私を眺めていた子どもも話をしてくる。私は、ともおちゃんやしげちゃんと遊ぶ時、何か心配するような気持でいるのに気がつく。これはいけないことだと思ふ。「心を育てる」と言っても、全員に言えることで、はらはらしながら遊ぶということは、侮辱していることではないだろうか。そのところがまだよくわからない。K先生は、いろいろな事について、その都度、ほめていらっしゃるが、それは子どもにとっても、とても誇らしげなことでしょう。「ありがとう」がとても自然に言える。

◆K先生からYさんへ

「侮辱」ではなく、おそれ、おののきではないでしょうか、保育者としての素質の中に、私はこの「おののき」をとりあげます。傲慢な人は保育はできません。

。片眼をつむつても、にっこり笑つても、じっと見つめても、又は先生をたたいても「おはよう」にはかわりはないのです。声を出さないから「おはよう」ではない、というわけではないのです。形式ではなく心なのです。そう思っていますのに、何故か挨拶の上手な子ども達です。生き生きとした表情なので、「形」だけではないと思うのですが――。